

正月休み

# ホームで暮らす親と一緒に過ごすか

年末年始は家族と過ごせる。正月が近くなると、老人ホームでは、「家族が迎えに来てくれる」と、指折り数えて待つ入所者もいるという。

しかし、実際に一時帰宅できるのは、100人入所の特別養護老人ホームで数人ほど。ほとんどの人は、老人ホームで年を越すことになるのだ。

老老介護で自宅預かりが難しかったり、家族旅行や仕事の都合でダメなど理由はさまざま。年中無休の老人ホームが増えているのもそのためだ。

正月ぐらい孫たちと一緒に過ごすのが家族じゃない

か、という気もするが、全国介護者支援協議会理事長の上原喜光氏は、「別に卑下する必要はない」とこう言う。

「受け入れる余裕がある家族は、老親と一緒に正月を迎えるべきでしょうが、今は正月に家族が田舎に集まるという習慣も薄れてきた。また、自宅に戻ることによって環境が変わり、急に体調を崩す高齢者も多い。むしろ、正月を一緒に過ごしたいなら、晴れ着を着て

ホームを訪問すればいいのです」

その上原氏は、「気持ちが楽になる介護の新常識」(秀和システム)を出版したばかり。その中で、「ショートステイを積極的に利用しよう」とも勧めている。

「私がそうでしたが、自宅で老親介護に当たっている家族は、正月休みが終わると、ドッと疲れが出てきます。そんなときは、1週間ほどショートステイさせることも考えましょう。施設によって違いますが、1～3カ月前から予約を受け付けるところが多い。介護する側にも休息が必要です」

1日の利用料金はトータルで4000～5000円ほど。散髪(1500円程度)は別料金だが、この際だからさっぱりしてもらおう。

